



陳情 4 第 1 号

つくば市議会議員 小久保 貴史 様

2022 年 1 月 19 日

むすびつくば保護者会

保護者代表 [REDACTED]

住所：つくば市 [REDACTED]

電話： [REDACTED]

つくば市不登校児童生徒学習支援事業むすびつくばの運営継続に関する陳情書

【陳情趣旨】

2020 年 10 月、つくば市不登校児童生徒学習支援事業の公募型プロポーザルを経て、認定 NPO 法人リヴォルヴ学校教育研究所(以下リヴォルヴ)による市との協働実証事業のむすびつくばがスタートしました。リヴォルヴは 2000 年より市内で運営してきたライズ学園での実践を通じて研鑽を重ねてきたスタッフと、学習に困難を抱える子どもたちへの支援ノウハウの蓄積を活かし、これまで1年以上にわたり一人ひとりの特性やニーズに寄り添った学習支援と居場所づくりに取り組んできました。それは、つくば市教育大綱の理念に沿うものであり、教育の理想と希望をかなえる一つの形であると、保護者としても大きな信頼を寄せ共に運営を担ってきました。

在籍している子どもたちには、発達障害や学習障害を持ち自信を喪失していたり、学校に居場所を見出せず疎外感から人間関係に不安を抱えていたり、精神的なケアやサポートを必要とする子どもが多くいます。スタートから一年以上をかけて、そのような子どもたちが主体性を発揮し、安心して自己を開示できる場をつくりあげてこられたのは、リヴォルヴスタッフの高い専門性ときめ細やかな対応があつてこそだと考えています。

また、地域に根差した活動を続けてきたリヴォルヴは地域の様々な主体、社会資源と連携し、不登校児童生徒とその保護者を支える有機的なネットワークを構築してきました。そのネットワークを生かして農園体験や造形、スポーツ等の多彩な活動による学びの場を実現し、臨床発達心理士や公認心理師による教育相談、任意団体「つくば子どもと教育相談センター」主催の不登校親の会による支援や情報提供等を通じて、保護者を対象とした支援体制も整えてこられました。

上記に挙げたような教育活動が実践されてきたのにも関わらず、教育局は協働実証事業の成果の取りまとめを 2022 年 3 月に行うこととし、事業の総括を待たずして、また、利用者の子どもやその保護者の声を聞く機会も持たず、2021 年 12 月にプロポーザルを実施し、委託先に新規の事業者を選定しました。このプロセスについて大きな疑問を覚えるとともに、つくば市教育大綱の理念に即した教育実践が今後も継続して行われていくのか大きな不安を感じています。

事業者変更によって在籍する子どもたちが受ける不利益は甚大であると考えます。実証事業を通じて、子どもたちとスタッフの間には、安心と信頼の関係が築かれつつありました。一年半という短期間で運営主体が変わることにより、現時点で在籍している子どもたちの情緒・発達に大きな支障が出るのが考えられます。様々な障害を抱える子どもたちにとって、これまでの学習環境や人間関係が失われることによる心身のダメージは大きく、新たな環境への適応に困難が伴うことから登所を断念せざるを得ない子どもも出る可能性が高いと考えられます。

以上の理由から、実証事業の総括前につくば市不登校児童生徒学習支援事業業務委託公募型プロジェクト実施に至った経過についての明確な説明と、今後の委託事業者選定におけるプロセスの改善、当該事業の運営がリヴォルヴによって行われ、これまでの教育理念と教育環境が継続されること、そしてむすびつくばの運営について子どもたちの主体性発揮の機会が保証されることを強く望みます。

関係者の皆様には、あくまでも主な受益者たる子どもの最善の利益を追求する立場に立って判断していただきたくお願い申し上げます。

【陳情事項】

- 1 リヴォルヴによる「むすびつくば」と、子ども達が築き上げてきた人間関係を含む学習・生活環境・スタッフ・事業内容をそのままに、2022年4月以降も現在の在籍児童生徒が継続して利用できること
- 2 早急に協働実証事業の総括を行い、子どもの声を聴き取り、2022年4月以降の委託事業に必ず取り入れること
- 3 協働実証事業の総括前に次年度委託事業者選定に至ったプロセスについての明確な説明をすること